

展示室1 描かれた建築

旅をする人にとって、その土地ならではの名建築を楽しむことも一つの醍醐味と言えるでしょう。人の生活に広く関わる建築には、実用のほかに、その時代に追及された美を見ることができます。

ここでは、イギリスのもっとも古い建築様式であるノルマン様式やゴシック様式の建築が描かれた作品を中心に特集しています。ノルマン征服(1066年)後、12世紀末まで続いたノルマン様式の建築は、ずっしりとして重厚な印象です。長い年月の間に破壊され、改装され、あるいは崩れて廃墟となったものも少なくありません。13世紀に入ると、空を貫くような鋭塔を持つゴシック様式の建築が登場します。厳しくも美しいこの建築様式は教会を中心に発展し、信仰の象徴となりました。

古の巡礼者たちが祈り、あるいは人々の生活の一部になった建築は、どのように描かれてきたのでしょうか。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
ジョン・ラスキン	『ヴェネツィアの建築』より ドゥカーレ神殿 第20番目の柱頭 サン・マルコ聖堂 南側ポルティコ 扉口頭部 カ・コンタリーニ・ポルタ・ディ・フェッロとカムボ・サンタ・マルゲリータから アラブ風の窓 カムボ・サンタ・マリア・マテール・ドミニ	1887	リトグラフ、エッチング、アクアチント・紙 ／ポートフォリオ(16点組)
ジョン・セル・コットマン	『ノーフォークに見られる建築遺構集』より 丘の上の礼拝堂内部、リン ヴォルスオーカン教会の内部、ノーフォーク ヤーマスの小修道院 ラングリー修道院にあるヴォルトの石碑	1818	エッチング／ポートフォリオ
ジョン・セル・コットマン	カーンの聖トリニティー大寺院、クリプト		エッチング
ポール・サンドビー	聖アウグスチヌス修道院の大門、カンタベリー	1782	アクアチント
ポール・サンドビー	『ウェールズ12景』第1部より 中庭から見るメイナーボア城	1775	アクアチント、エッチング・紙 ／ポートフォリオ(表紙+12点組)
ポール・サンドビー	カーナーヴォン城	1776	アクアチント、エッチング
トマス・ガーティン	エア川沿いのカークストール修道院	1824	メゾチント
トマス・ガーティン	フォッサ川沿いのヨーク大聖堂		メゾチント
トマス・ガーティン	リンカーン州の名所風景	1797-1801	ライン・エングレーヴィング／本
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	S.ロジャース『詩集』第1巻		ライン・エングレーヴィング／本
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ノラム城		エッチング、メゾチント
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ブルーアム城	1825	メゾチント
ジョン・コンスタブル	『イングランドの風景』よりストーク・バイ・ネイランド	1830-2	メゾチント／ポートフォリオ
ジョン・コンスタブル	ストーンヘンジ	1843-4頃	メゾチント
トマス・ラウンド	デビルズ・タワー・キャロウ橋から見たところ	1832	エッチング
トマス・ラウンド	デビルズ・タワー・キャロウ橋に向かって見たところ		エッチング
ジョン・セル・コットマン	丘の上の聖母マリア礼拝堂、リン、ノーフォーク	1817	エッチング
ジョン・セル・コットマン	ジュミエージュ大寺院、西側正面	1819	エッチング
ジョン・セル・コットマン	『ジョン・セル・コットマンのエッチング集』より セント・ボトルフス小修道院、エセックス	1811	エッチング／ポートフォリオ
ジョン・セル・コットマン	フェカンのロマネスク遺跡		鉛筆・紙
ジョン・セル・コットマン	ルアン、ラ・ピュセル広場のブルトルルド館	1823	水彩・紙
ミュアヘッド・ボーン	ノリッジの市場		ドライポイント・紙
リチャード・パークス・ボニントン	エヴルーの大時計塔		リトグラフ・紙
ウォルター・グリーヴズ	デューク通り、チェルシー	1860	エッチング・紙
ウォルター・シッカート	カフェの中	1914頃	油彩・キャンバス
ジョン・コンスタブル	デダムの谷	1802	油彩・紙、キャンバス
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カンバーランド州のコールダー・ブリッジ	1810	油彩・キャンバス
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス
サー・エドワード・コーリー・パーン=ジョーンズ	フローラ	1868-84	油彩・キャンバス

展示室2 日本近代—画家たちの挑戦

明治時代、本格的に日本にもたらされた西洋の絵画技法は、当時の画家たちに衝撃を与えました。その迫真的な表現技法を獲得すべく、画家たちは手探りのなか歩みだします。

フランスで本格的に美術教育を受けた黒田清輝は、明るい印象派的な表現を日本にもたらし、東京美術学校で指導者となりました。彼の後には藤島武二や和田英作らも教鞭を執り、近代日本における洋画の礎を築きました。

時代が進むにつれ、画家たちは書物や雑誌をとおして海外の最新の美術に触れるようになり、それぞれの表現の可能性を模索していきます。また、欧米各地に留学する画家も増え、彼らは帰国後日本に新たな潮流を生み出しました。明治から大正にかけて、多様な展開をみせた日本の洋画をご覧ください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
浅井 忠	少女の顔	1878 (明治 11)	木炭・紙	
五姓田 義松	婦人像	1871 (明治 4) 頃	油彩・キャンバス	
百武 兼行	風車のある風景	1877 (明治 10)	油彩・キャンバス	
高橋 由一	風景 (鳥海山)	1880 年代	油彩・キャンバス	
五百城 文哉	真如堂図	1897 (明治 30)	油彩・キャンバス	
諫山 麗吉	神戸付近の風景		油彩・キャンバス	
黒田 清輝	東久世伯爵像エスキース	1894 (明治 27)	油彩・キャンバス	
和田 英作	上総風景	1897 (明治 30)	油彩・キャンバス	
藤島 武二	がくの花	1901 (明治 34)	油彩・キャンバス	
岸田 劉生	銀座数寄屋橋	1909 (明治 42) 頃	油彩・板	
岸田 劉生	銀座と数寄屋橋畔	1911 (明治 44) 頃	油彩・板	
満谷 国四郎	冬	1922 (大正 11)	油彩・キャンバス	
高村 真夫	風景	1903 (明治 36)	油彩・キャンバス	
牧野 義雄	ハイド・パークのアキレス像		油彩・キャンバス	
原 撫松	霧の広場	1906 (明治 39)	油彩・キャンバス	
栗原 忠二	ヴェニス風景	1921 (大正 10)	油彩・板	
斎藤 豊作	風景	1912 (明治 45)	油彩・キャンバス	
山本 森之助	冬の磐梯山	1918 (大正 7) 頃	油彩・キャンバス	
山下 新太郎	苔寺	1922 (大正 11) 頃	油彩・キャンバス	
高木 背水	風景		油彩・キャンバス	
小山 敬三	風景	1922 (大正 11)	油彩・キャンバス	
曾宮 一念	静物	1918 (大正 7)	油彩・キャンバス	武田光司コレクション寄贈
恩地 孝四郎	黒い机	1922 (大正 11)	油彩・キャンバス	

展示室3 社会へのまなざし

第二次世界大戦が終わり、1950年代になると日本は高度経済成長の時代を迎えます。しかし、戦災からの復興を遂げる一方、社会に暗い影を落とす事件や環境問題が起こったこともまた事実です。社会の変化は芸術家たちにも少なからずの影響を与えました。

1947(昭和22)年に新美術の創造を旨として結成された「前衛美術会」には、高山良策や山下菊二、尾藤豊らが参加し、1950年代には社会的事件を記録・報告する「ルポルタージュ絵画」と呼ばれる作品を制作するようになります。ジラード事件に取材した中村宏の《射殺 Aching》や公害問題への批判を込めた高山良策の《漁夫》は、ルポルタージュ絵画の流れのなかで生まれた作品です。

激動の時代に、歪んだ社会と向き合った芸術家たちのまなざしをご覧ください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
丸樹 長三郎	戦災後	1945 (昭和 20)	油彩・キャンバス	丸樹敏男氏寄贈
丸樹 長三郎	おろかなりし歴史	1945 (昭和 20)	油彩・キャンバス	丸樹敏男氏寄贈
吉井 忠	敗れたる風景	1946 (昭和 21)	油彩・キャンバス	吉井忠氏寄贈
鎌田 正蔵	飢える人	1952 (昭和 27)	油彩・キャンバス	鎌田正蔵氏寄贈
佐藤 昭一	夏期休業 (ガラス工場にて)	1953 (昭和 28)	油彩・紙	
尾藤 豊	川口鋳物工場 A	1955 (昭和 30)	水彩、墨、インク・紙	
尾藤 豊	川口鋳物工場 B	1955 (昭和 30)	水彩、墨、インク・紙	
尾藤 豊	川口鋳物	1954 (昭和 29)	油彩・キャンバス	
中村 宏	射殺 Aching	1957 (昭和 32)	油彩・キャンバス	
中村 宏	城	1956 (昭和 31)	油彩・キャンバス	
中村 宏	島	1956 (昭和 31)	水彩、墨、鉛筆、インク・紙	
中村 宏	亡命者の対話より (プレヒト) No.4 (少女乱舞)	1963 (昭和 38)	インク、墨・紙	
高山 良策	漁夫	1958 (昭和 33)	油彩・キャンバス	
高山 良策	血化洞尻酢池場留	1975 (昭和 50)	油彩・キャンバス	柳沼文子氏寄贈

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
山下 菊二	意国への帰還	1980 (昭和 55)	リトグラフ、コラージュ・紙	
山下 菊二	身体障害児をめぐる人々	1967 (昭和 42)	リトグラフ、コラージュ・紙	
石井 茂雄	戒厳状態 I—暴力シリーズより—	1956 (昭和 31)	油彩・キャンバス	
黒沢 吉蔵	ガスタンクのある風景	1956 (昭和 31)	岩絵具、箔・紙	黒沢吉蔵氏寄贈
菊地 養之助	煙突のある風景	1959 (昭和 34)	岩絵具・紙	菊地一郎氏寄贈

展示室 4-① 春の版画

現代の私たちが雑誌や WEB で季節ごとの特集などを見るように、江戸時代には、絵草紙屋の店先に並んだ錦絵によって、季節の話題や人気の役者などの情報が伝えられ、木版画はその中心的な役割を果たしていました。幕末から明治にかけて、銅版画や石版画など新しい技術として伝わった版画技法も、最新の情報を伝えるメディアとして広がり、季節の風俗や風景を魅力的に伝えました。

今回は、明治の銅版画、木版画、石版画にみられる春の情景、昭和から現代の主に木版画に描かれた華やかな春を特集します。待ち遠しい春の訪れを思いながら、お楽しみください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
岡田 春燈齋	江戸上野東叡山花盛		銅版・紙	
橋本 澄月	江戸上野東叡山花見之景		銅版・紙	
橋本 澄月	江戸神田明神社内風景		銅版・紙	
楊洲 周延	『江戸錦』 お庭あるき	1898 (明治 31)	木版・紙	亀井よし子氏寄贈
楊洲 周延	『江戸錦』 長局	1898 (明治 31)	木版・紙	亀井よし子氏寄贈
宮川 春汀	『美人十二ヶ月』 追羽子	1898 (明治 31)	木版・紙	亀井よし子氏寄贈
宮川 春汀	『美人十二ヶ月』 観梅	1898 (明治 31)	木版・紙	亀井よし子氏寄贈
宮川 春汀	『美人十二ヶ月』 桜かり	1898 (明治 31)	木版・紙	亀井よし子氏寄贈
山本 昇雲	『今姿』 花かげ			亀井よし子氏寄贈
山本 昇雲	『今姿』 ひなまつり			亀井よし子氏寄贈
山本 昇雲	『今姿』 酔いけしき			亀井よし子氏寄贈
熊澤 喜太郎	宮中和歌詠図	1888 (明治 21)	石版、手彩色・紙	
渡辺 忠久	美人花生之図	1889 (明治 22)	石版、手彩色・紙	
荒川 藤兵衛	婦人弾琴之図	1889 (明治 22)	石版、手彩色・紙	
渡辺 忠久	美人花見之図	1888 (明治 21)	石版、手彩色・紙	
岡村 政子 (推定)	桜狩	1891 (明治 24)	石版・紙	
岡村 政子	梅若丸	1889 (明治 22)	石版、手彩色・紙	
小山 正太郎	『西洋画譜』 (第四秩) 東京眞景 (第三) (東京日本堂発行) 「亀井戸梅林」	1890 (明治 23)	石版・紙	
小山 正太郎	『西洋画譜』 (第四秩) 東京眞景 (第三) (東京日本堂発行) 「墨堤晩桜」	1890 (明治 23)	石版・紙	
二神 純孝	『西洋画譜』 (第四秩) 東京眞景 (第三) (東京日本堂発行) 「東台早桜」	1890 (明治 23)	石版・紙	
二神 純孝	『西洋画譜』 (第四秩) 東京眞景 (第三) (東京日本堂発行) 「飛鳥山春霞」	1890 (明治 23)	石版・紙	
石井 鶴三	『日本風景版画 第九集 東京近郊之部』 (日本風景版画会) 荒川堤	1918 (大正 7)	木版・紙/ポートフォリオ	
安井 曾太郎	『安井曾太郎版画集』 (石原求龍堂) 正月娘姿	1933 (昭和 8)	木版・紙/ポートフォリオ	
坂本 繁二郎	『日本風景版画 第六集 筑紫之部』 (日本風景版画会) 表紙	1918 (大正 7)	木版・紙/ポートフォリオ	
坂本 繁二郎	『日本風景版画 第六集 筑紫之部』 (日本風景版画会) 榎寺神社	1918 (大正 7)	木版・紙/ポートフォリオ	
坂本 繁二郎	『日本風景版画 第六集 筑紫之部』 (日本風景版画会) 神の湊	1918 (大正 7)	木版・紙/ポートフォリオ	
福田 利秋	花	1933 (昭和 8)	木版・紙	
福田 利秋	福寿草	1967 (昭和 42)	木版・紙	
秋山 泰計	春宵	1968 (昭和 43)	木版・紙	
泉 茂	春		リトグラフ・紙	
斎藤 清	早春	1990 (平成 2)	木版・紙	
福田 利秋	春の小峰城	1991 (平成 3)	木版・紙	

展示室 4-② 食卓を彩る

実用性と美を兼ね備えた工芸作品、とりわけ食器は、私たちの五感を大いに刺激するものといえます。食卓にどんな風味をもたらしてくれるのか。手に取ったとき、指先に伝わる感触や奏でる音はどのようなものか。そしてもちろん、様々な意匠が凝らされており、器そのものの存在だけでも十分に私たちの目を楽しませてくれます。同じ作家の同じ種類の食器でも、形状や素材のちょっとした違いで、飲食のシーンに与える印象が変わってくるでしょう。

毎日の生活で愛でたいような親しみを感じさせる食器から、晴れの場を盛り立ててくれそうな特別感のある器まで、多彩な作品を展示します。貴方の食卓を彩りたい作品はどれでしょうか。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
クリストファー・ドレッサー	クラレットジャグ、黒檀把手（ぶどう酒用容器）		ガラス、金属、電気メッキ、黒檀把手
クリストファー・ドレッサー	デカンター・セット（栓付き細首ぶどう酒瓶）		ガラス、金属金具、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	クラレットジャグ（ぶどう酒用容器）		ガラス、金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	クラレットジャグ（ぶどう酒用容器）		ガラス、金属、電気メッキ
佐藤 潤四郎	大杯・ワインを造る		ガラス/宙吹・グラヴェール、プランツ
佐藤 潤四郎	大杯・ガラスを吹く人	1986（昭和 61）	ガラス/宙吹・グラヴェール、プランツ
佐藤 潤四郎	ルーマー杯（グリーン）		ガラス/宙吹・プランツ、雲母封入
佐藤 潤四郎	葡萄文ワイングラス		ガラス/宙吹・グラヴェール
佐藤 潤四郎	竹に雀文ワイングラス		ガラス/宙吹・グラヴェール、プランツ
クリストファー・ドレッサー	孔雀象嵌模様円形皿		銀、銅、真鍮
クリストファー・ドレッサー	草花象嵌模様足付皿		銀、銅、真鍮
クリストファー・ドレッサー	ナイフとフォークのセット		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	緑釉サラダボウル（サーバー付き）	1879-82 頃	陶器、金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	三角型薬味入れセット		ガラス、金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	三角型薬味入れセット		ガラス、金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	日本風把手付き薬味入れ		ガラス、金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	日本風把手付き薬味入れ		ガラス、金属、電気メッキ
佐藤 潤四郎	皿（グリーン）		ガラス/宙吹き
佐藤 潤四郎	グリーンタンブラー		ガラス/プランツ
佐藤 潤四郎（デザイン）	ウィスキーボトル「インペリアル」		ガラス/機械吹き・カット
佐藤 潤四郎	タンブラー（20点）より2点		ガラス/型吹ほか
佐藤 潤四郎 カガミクリスタル製作	手吹きウィスキーボトル《スーパーニッカ》初号モデル	1962（昭和 37）頃	ガラス/宙吹
佐藤 潤四郎	タンブラー（スモークグラス）（2点組）		ガラス/宙吹き
クリストファー・ドレッサー	青釉水差	1879-82 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	黄緑釉水差（一対）	1892-95 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	スプーン・ウォーマー		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	スプーン・ウォーマー		金属、電気メッキ、黒檀把手
クリストファー・ドレッサー	蓋つきスプーン入れ		金属、電気メッキ、黒檀把手
クリストファー・ドレッサー	蓋付きバスケット、黒檀把手		金属、銀メッキ、黒檀把手
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック（ポイントアーチ型）	1879	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック	1881	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック（楕円型）	1881	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	塩入れとスプーン	1884	銀
佐藤 潤四郎	シュガーポット		ガラス/型吹き・金属
クリストファー・ドレッサー	ミルク入れ	1880	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	シュガー・バスケット（穴あきふるい付き）	1884	金属、銀メッキ
クリストファー・ドレッサー	銀製ティー・セット	1885	銀、象牙、金メッキ
クリストファー・ドレッサー	彩色金彩ロータス文大皿		陶器
クリストファー・ドレッサー	緑釉蓮花刻文皿	1879-82 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	黄釉竹節型小皿	1879-82 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	彩釉台鉢	1879-82 頃	陶器
田村 耕一	野草図楕円鉢	1963（昭和 58）頃	陶器
折笠 兆春	朱い盛器	1985（昭和 60）	乾漆

ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質
● 1 階			
笠置 季男	躍進	1958（昭和 33）	セメント
アントニー・ゴームリー	量子雲 XXIII	2000	ステンレス・スチール棒
アントニー・ゴームリー	領域 XIII	2000	ステンレス・スチール棒
● 2 階展示ロビー			
清水 多嘉示	フランスの女	1927（昭和 2）	ブロンズ
舟越 保武	少女	1956（昭和 31）	砂岩
佐藤 忠良	群馬の人	1952（昭和 27）	ブロンズ
高田 博厚	アラン像	1932（昭和 7）	ブロンズ
● 前庭			
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ